

策定本部における検討内容一覧

都市基盤整備分科会

※下線は 11 月に提案発表頂いた事業です。

市民会議提案			策定本部における検討内容		
No.	施策名	事業	関係課	第 5 次総合計画への対応	理由・効果など
1	「西口周辺の景観の向上」 ⇒重点施策	①西口駅前広場の再整備	地域政策室	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画案策定の中で、事業化の素材として、または事業コンセプトや発想を踏まえ、市において多角的視点から具体化及び計画計上の可能性を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 西口駅前については、バス・自動車・歩行者などの導線が錯綜しているなど、多くの問題が指摘されており、今後、将来の駅前広場の役割などを踏まえた望ましい整備のあり方などについて、早急に検討する必要がある。また、駅東口の再整備や LRT 導入の検討も進めているため、駅周辺として西口も含めて一体的な整備を行う必要がある これらのことから、具体的手法や事業プロセス等については課題があるものの、西口駅前の整備の必要性や取組の方向性については、行政側の認識と整合している。
		② <u>歴史性を語る美しい西口周辺の景観形成</u>	都市計画課	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画案策定の中で、事業化の素材として、または事業コンセプトや発想を踏まえ、市において多角的視点から具体化及び計画計上の可能性を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 駅西口駅前には、バス・自動車・歩行者などの動線が入り乱れ、派手な屋外広告物の乱立など、多くの問題が指摘されており、駅前景観のあり方について、早急に検討する必要がある。また、駅東口の整備も進んでおり、駅西口を含めた J R 宇都宮駅周辺を全体として検討する必要がある。 しかし、歴史性を語る景観については、駅前広場の再整備の方向性や、事業規模、プロセスを検討する必要があるため、景観的なコンセプトや具体的な計画を現時点で示すことは難しい。 駅西口の美しい景観形成に対する取組の方向性は、行政側の認識と整合している。
2	「東口周辺の景観形成」	① <u>現代的な雰囲気のある東口周辺の景観形成</u>	都市計画課 駅東口整備推進室	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画案策定の中で、事業化の素材として、または事業コンセプトや発想を踏まえ、市において多角的視点から具体化及び計画計上の可能性を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 駅東口整備事業については 2 1 世紀の宇都宮市のまちづくりをリードする地区の形成及び県・市の玄関口にふさわしいシンボル性のある都市環境の整備を目的としており、計画地において高次の都市機能が集積する新たな都市拠点が整備される予定である。 本市の顔となる新たな玄関口として、魅力ある景観整備を駅東口地区整備事業と一体的に実施することにより、より一層の効果が見込めることから、取組の方向性については、行政側の認識と整合している。

策定本部における検討内容一覧

		② 国際会議場, コンベンション機能の導入	駅東口整備推進室	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画案策定の中で, 事業化の素材として, または事業コンセプトや発想を踏まえ, 市において多角的視点から具体化及び計画計上の可能性を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> コンベンション機能については, 交流人口の増加や観光振興, さらにはシティーセールスなど, 本市全体への波及効果が高いことから, コンベンションシティとしてその機能向上を目指している。 駅東口地区は, 全国からの来訪者を迎え入れる県都の新たな玄関口として開発を進めており, また宿泊施設や業務・商業など, コンベンション機能と相乗効果が図れる民間施設の導入も計画していることから, 国際会議など様々なコンベンションや会議の開催に対応できる施設の整備について具体化を進めている。 具体的な施設内容や規模・機能については, 市内既存施設との機能連携や役割分担を踏まえた検討を進めている。 これらのことから, コンベンション機能の導入は必要性に関する認識, 取組の方向性については, 行政側の認識と整合している。
3	「鉄道の利便性向上」	①JR宇都宮・岡本駅間における新駅の検討	地域政策室	<ul style="list-style-type: none"> 具体化に向けては, 課題が多いことから, 市民意向のひとつとして今後の事業立案の参考とする 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車交通から公共交通への利用転換を図り, 公共交通を中心とした交通体系の構築に寄与する事業であるとともに, 地域の活性化にも繋がるものであるが, 提案の新駅設置については, 将来の市全体の公共交通ネットワークとの調整や鉄道事業者の意向など, 長期的な検討が必要である また, 提案の新駅については, 事業主体が市となることが想定され, 費用面などで課題が残る。
		②JR宇都宮・雀宮駅間における新駅の検討			
4	「新しい交通システムの整備を契機とする公共交通への転換」	① 都市交通サービス改善プロジェクト	交通政策課	<ul style="list-style-type: none"> 既に同様のコンセプトに基づき (一部) 実施しており, 提案を踏まえ, 既存事業の強化・拡充等による対応を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 本市は全国有数のマイカー依存型都市であり, 過度なクルマへの依存は, 交通渋滞や交通事故の増加, 中心市街地の空洞化, 環境問題など, 様々な問題を引き起こしている。 これらの問題解決とともに, これからの超高齢社会へ対応していくためには, 「クルマ中心の社会」から, 「クルマと公共交通が共存する社会」への転換が必要である。 このため, LRTを東西の基幹公共交通として, バス交通, 地域内交通を維持・確保し, 様々な交通手段が連携した利便性の高い公共交通体系の構築を目指している。
		② 中央部バス専用レーン化の検討	交通政策課	<ul style="list-style-type: none"> 具体化に向けては, 課題が多いことから, 市民意向のひとつとして今後の事業立案の参考とする 	<ul style="list-style-type: none"> 中央部バス専用レーン化は, 定時性向上策として有効であると考えられるが, 道路の構造や信号処理, 歩行者の安全確保などについて, 道路管理や交通管理者との協議や, 市民, 交通事業者との調整など, 長期的な検討を必要とする。
		③ LRTの導入検討	LRT導入推進室	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画案策定の中で, 事業化の素材として, または事業コンセプトや発想を踏まえ, 市において多角的視点から具体化及び計画計上の可能性を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> LRT導入に向けた課題や課題解決策等を検討中であるが, 公共交通への転換については, 高齢化社会, 環境問題の顕在化等, 時代潮流の変化を的確に捉えており, 策定本部の重点課題と一致している。また, 公共交通を中心としたネットワークを構築する上でLRTは東西の基軸を成すものであり, 他の公共交通と連携し一体的に整備することにより, より一層の効果が見込める。

策定本部における検討内容一覧

		④ <u>公共交通指向型まちづくりの推進</u>	交通政策課	<ul style="list-style-type: none"> 具体化に向けては、課題が多いことから、市民意向のひとつとして今後の事業立案の参考とする 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通は、あくまでも目的地に行くための移動手段の一つであり、マイカーから公共交通への利用転換を図る上でも、目的と交通をセットで考える「公共交通指向型まちづくり」は重要な取組であると認識している。 しかし、都市マスタープラン等の既往計画との整合や交通事業者をはじめとする関係機関等との調整、さらには市民の理解協力など、長期的な検討が必要である。 総合計画の施策「公共交通ネットワークの充実」を検討する上での参考とする。
5	「市民の憩いの空間としての八幡山の活用」	① <u>八幡山回遊路の整備</u>	公園緑地課	<ul style="list-style-type: none"> 具体化に向けては、課題が多いことから、市民意向のひとつとして今後の事業立案の参考とする 	<ul style="list-style-type: none"> 公園へのアクセス強化という視点で八幡山の活用に寄与する事業であるが、バス事業者の意向（採算性など）や公園内に車両が進入することに対する利用者の安全の確保など課題が多い。 また、バス乗り入れに伴う公園の改変や周辺道路の整備などは事業主体が市となることから、費用面なども課題が残る。
		② <u>集客魅力アップ大作戦</u>	公園緑地課	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画案策定の中で、事業化の素材として、または事業コンセプトや発想を踏まえ、市において多角的視点から具体化及び計画計上の可能性を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 八幡山公園の集客力アップを図るためには、宇都宮タワーといった単体で集客を図るのではなく、公園全体の魅力アップや中心市街地から公園までの魅力のアップが必要であり、そのためには行政だけではなく民間と連携した施策の展開が必要である。 また、レストランやフラワーガーデン等については、実施主体や事業費、具体的な事業の仕組みなど課題が多いが、魅力アップのためには有効と考えられ、行政側の認識と整合する部分もある。
		③ <u>NPO等による管理運営の実施</u>	公園緑地課	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画案策定の中で、事業化の素材として、または事業コンセプトや発想を踏まえ、市において多角的視点から具体化及び計画計上の可能性を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 八幡山公園は、憩いややすらぎの場・レクリエーションの場としてのほか、まちの顔としての景観や大規模な災害時の避難場所としての役割など、非常に多様な役割が求められる。このような役割は、広く市民全体が公平に享受すべきものであることから、公園の有料化はないと考えているが、効率的・効果的な管理運営手法として、指定管理者制度の導入等は検討していく必要がある。
6	「都心賑わい空間としての釜川の活用」	① <u>釜川に沿って快適に歩ける環境の形成</u>	商工振興課 道路維持課 河川課	<ul style="list-style-type: none"> 既に同様のコンセプトに基づき（一部）実施しており、提案を踏まえ、既存事業の強化・拡充等による対応を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 「車両通行止め」については、河川沿いに民間駐車場が複数存在しており、迂回路の確保にも問題があることから、現在のままが望ましいと考える。 また、「歩きやすい道」についても、釜川改修時に景観上整備された道であることから、現在のままが望ましいと考える。 「釜川から田川まで歩けることの工夫」については、案内板などの設置により誘導が可能である。
		② <u>フリーマーケット、屋台などのイベントの実施</u>	商工振興課	<ul style="list-style-type: none"> 既に同様のコンセプトに基づき（一部）実施しており、提案を踏まえ、既存事業の強化・拡充等による対応を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> イベントの実施については、まちづくり組織などが中心となって、オリオン市民広場やふれあい広場などにおいての実施が現行制度で可能である。
7	「蔵のあるまちづくりの推進」	① <u>大谷石造り建造物取り壊し事前申請制度の導入</u>	文化課	<ul style="list-style-type: none"> 具体化に向けては、課題が多いことから、市民意向のひとつとして今後の事業立案の参考とする 	<ul style="list-style-type: none"> 国登録建造物や市認定建造物の制度 PR を行うなかで、事前に情報を得ることが可能である。

策定本部における検討内容一覧

		② 清住通り 蔵しっくストリート事業	観光交流課	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画案策定の中で、事業化の素材として、または事業コンセプトや発想を踏まえ、市において多角的視点から具体化及び計画計上の可能性を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 所有者や地域住民の理解確保と意識醸成という点と、イベント実施やショップ運営等における事業プロセスが不明確という点で課題が残るが、地域NPOを主体とした清住通りの蔵活用事業は、市民が主体となって歴史的建造物や古いまちなみなどの貴重な観光資源を有効活用できる提案として、その方向性は策定本部の認識と概ね一致している。
		③ 蔵資材大谷石バンク事業	産業政策課	<ul style="list-style-type: none"> 具体化に向けては、課題が多いことから、市民意向のひとつとして今後の事業立案の参考とする 	<ul style="list-style-type: none"> 大谷石材をストックするには、輸送コスト、ストック場所、品質・安全管理などの面で課題があり、また、地元大谷石材業者等の販売事業を圧迫する恐れなどもあるため、その必要性や費用対効果などについて整理することが必要である。
8	「観光地大谷の魅力アップ」	①大谷みちの駅の整備と観光拠点化	観光交流課	<ul style="list-style-type: none"> 具体化に向けては、課題が多いことから、市民意向のひとつとして今後の事業立案の参考とする 	<ul style="list-style-type: none"> 大谷地域への「みちの駅」の設置は、大谷観光の推進に寄与するものと思われるが、設置の必要性や公共交通ネットワークとの調整、費用対効果など、多角的な長期的検討が必要である。
		②大谷研究所の整備	産業政策課	<ul style="list-style-type: none"> 具体化に向けては、課題が多いことから、市民意向のひとつとして今後の事業立案の参考とする 	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅における大谷石切削の歴史展示などは、観光PR等の点で効果が期待されるが、研究所を組織して取り組むべきかどうかについては、更にその目的や目指すべき姿を明らかにし、必要性や費用対効果を見出した上で体制のあり方を整理することが必要であり、課題が多い。
		③大谷スマートインターチェンジの設置	交通政策課	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画案策定の中で、事業化の素材として、または事業コンセプトや発想を踏まえ、市において多角的視点から具体化及び計画計上の可能性を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> スマートインターチェンジについては、高速道路の利便性向上を図るとともに、地域生活の充実、地域の活性化に寄与するものであるが、整備効果や周辺道路への影響、接続道路の整備など課題も多い。 総合計画の施策「道路ネットワークの充実」の中で検討していく。